

# 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

## における東小橋小学校の結果の分析と

### 今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年4月から令和6年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

#### 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- （1）子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- （2）各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- （3）各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

#### 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・東小橋小学校では、5年生 14名

#### 3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）を実施する。

# 令和6年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

大阪市立東小橋小

学校

児童数

14

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.83	21.43	40.29	41.29	56.00	9.40	161.43	28.43	57.50
大阪市	15.78	19.09	32.72	38.56	45.05	9.52	147.96	20.45	51.13
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
女子	17.39	20.71	43.71	40.00	44.86	9.36	144.71	19.33	62.20
大阪市	15.64	18.06	37.62	36.76	34.65	9.83	139.56	12.71	52.47
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92

### 結果の概要

結果の平均値を見ると、体力合計点は男子・女子ともに大阪市及び全国を上回っている。各項目の平均値においても男子の握力だけが全国の平均値を下回るのみで、他の結果はいずれも全国の平均値を上回る結果となっている。質問項目「運動やスポーツをすることは好きですか。」に対しては、「好き」と答える児童の割合が、男子85.7%女子71.4%でありこちらも大阪市及び全国の割合を上回っている。また、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は0%であった。

また、質問項目「学校の体育の授業以外で、運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツを合計でおよそどれくらいの時間していますか。」において平日の運動時間の平均値が大阪市及び全国と比べ2倍以上多い結果となっていた。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体力合計点が全国平均を上回り、とりわけ20mシャトルランの結果が大きく上回っている。その要因として休み時間にほとんどの児童が外で遊んでいる実態があると考えられ、上記結果の概要における平日の運動時間の多さにも裏付けされている。休み時間に鬼ごっこ・縄跳び・ドッジボールと様々な遊びを通して身体を積極的に動かしていることが、体力合計点の底上げに繋がっていると考えている。また、ここ数年同じような結果が出ていることから、学校としての取組が着実に実を結んでいると捉えることができる。その要因の一つとして校内での充実した体育科の研修会が多数行われていることが挙げられる。教員の体育の授業力向上が運動やスポーツが好きな児童を増やし、結果として児童の運動量の増加に繋がっている。

今後の課題として、質問項目「朝食は毎日食べますか。」に対して「毎日食べる」が男子57.1%女子85.7%であった。この項目においては家庭の実情に影響される面も多いので「毎日食べる」の回答100%を目指し、学校として各家庭との協力を一層注力していきたい。